

# 下都賀管内水稲技術資料 No.1

令和3(2021)年3月19日  
下都賀農業振興事務所

## 重点ポイント

- ①種子や床土の消毒をしましょう！
- ②浸種・催芽・育苗時は**温度管理**が大切！

気象庁の3か月予報（2月24日発表）  
＜向こう3か月の気温の各階級の確率（％）＞

気温、降水量の各階級の確率（％）			
気温	関東甲信地方	03月～05月	20 30 50
		03月	10 30 60
		04月	30 40 30
		05月	20 40 40
降水量	関東甲信地方	03月～05月	30 30 40
		03月	20 40 40
		04月	30 40 30
		05月	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

育苗期は気温が並～高い見込みです。



## 栽培管理

### ◎多品種の取り扱いに注意

2品種以上作付を行う場合は、浸種時の袋や育苗箱に目印をつける等、品種を区別できるように注意しましょう。また、苗の搬送時に苗箱の取り違いが無いように、補助者を含めて確認を徹底しましょう。

### ◎優良種子の使用

良質米生産のため、採種ほ産の種子を **3～3.5kg/10a** 準備しましょう。  
未消毒種子は必ず種子消毒を行いましょ。

表 主な種子消毒剤（令和3年3月時点で登録のある薬剤）

農薬名	希釈濃度	使用時期	使用方法	適用病害虫名
テクリードC フロアブル	200倍	浸種前	24時間 種子浸漬	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病、 ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病、 苗立枯病(リゾーパス菌)、苗立枯病(トリゲル菌)
スミチオン 乳剤	1000倍	播種前	6～72 時間浸漬	イネシンガレセンチュウ

## ◎床土の消毒

苗立枯病の発生を防ぐため、床土には必ず予防剤を使用しましょう。

『人工培土』で、消毒済と書かれていても熱処理されているだけです。必ず床土消毒剤を使用しましょう。

## ◎浸種

浸種は発芽を揃えるために重要な作業です。籾に十分に吸水させ、芽だしを揃えましょう。浸種は日陰で、適切な水温（10～15℃）で、十分な期間を確保し、2日おきに水の交換をしましょう。

表 積算温度の目安

消毒種子の種類	積算温度
温湯消毒種子	100℃
薬液消毒種子	120～130℃

種子の状態をよく確認!!

(例) 水温 12℃×10日=120℃

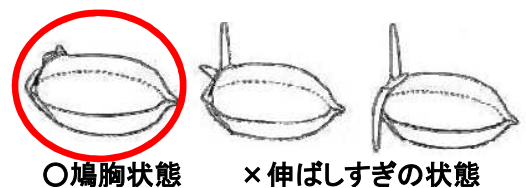
### ⚠ 浸種時の注意! ⚠

- 水温が上がりやすい日なたでの浸種は避けるとともに、水温上昇や雑菌混入を防ぐため、浸種槽をフタで覆いましょう。
- 薬液消毒種子の場合、浸種初日から3日間は水を交換せず、その後2～3日おきに交換しましょう。
- 浸種水温が低いと発芽不良が助長されます。夜が冷えることが予想される場合は、保温措置（催芽器の使用や、毛布をかける等）をとってください。

## ◎催芽

催芽は、芽の長さ1mm程度（ハト胸状態）に均一にすることが狙いです。

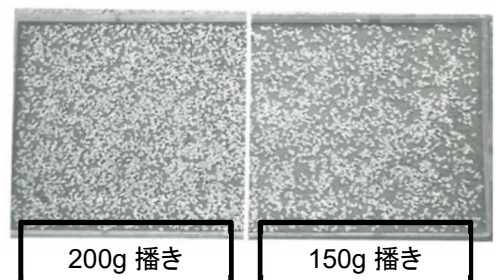
催芽の水温は、温湯消毒種子では28℃、薬液消毒種子では30℃としましょう。催芽時間は、18～20時間で均一に催芽させましょう。



出芽を均一にするために、芽切れを確認しながら播種作業に入りましょう。

## ◎播種

播種量は、乾燥籾で150g以下（催芽籾で190g以下）/箱として、均一に播種しましょう。厚播は、ムレ苗や徒長苗などの原因となります。



## ◎育苗ハウス内の温度管理

育苗初期（緑化・硬化時期）	昼間 18～25℃（30℃以上にしない） 夜間 10℃（最低 5℃以上）
育苗中～後期	昼間 18～25℃（30℃以上にしない） 夜間 5～7℃以上

ハウスやトンネル内の温度計は苗の高さに設置し、苗箱付近の温度を確認して温度管理をします。ハウス内の温度は、朝は急に上がり、夕方は急に下がります。晴れた日には、朝 7～8 時にビニールを開けて換気し、夕方 4～5 時に閉めて保温しましょう。

## ◎かん水

かん水量の目安は、早朝又は午前中にかん水を行い、夕方は箱の縁が乾く程度。

緑化期：極度に乾燥した時以外のかん水を控え、初期の徒長を防ぎましょう。

硬化期：床土の乾き具合、苗の生育状況を見て、控えめにかん水しましょう。

かん水量が多すぎると苗が徒長し、根が生育不良となるので注意。

### ⚠️ ムレ苗に注意 ⚠️

苗を過保護にせず、急激な温度変化や水分変化をしないようにしましょう。



←ムレ苗の症状

「ムレ苗」とは、人間の風邪のようなもので、低温が続いた後、高温になると体が弱っているため、ピシウム菌に感染しやすくなりムレ苗となります。

写真のように苗がリング状または坪枯れ状に萎凋する病害で、発生してしまうとなかなか有効な対策はありません。

そのため、症状が広がらないうちに発見することが大切です。

### ○発生した場合の対策

- 症状が軽い場合は、育苗箱に発生したカビに対応できる薬剤を選択、散布。
- 寒冷紗などで日よけをし、夜は十分保温し根の回復を促す。
- 発生が軽微な箱は、できるだけ早く本田に移植する。



4月～6月は「春の農作業安全確認運動」の実施期間です。

高齢者の事故が多発しています！余裕を持った作業を心がけましょう。

### 問い合わせ先

栃木県下都賀農業振興事務所 経営普及部 農畜産課 0282-24-1101

HP <http://www.pref.tochigi.lg.jp/g54/index.html>